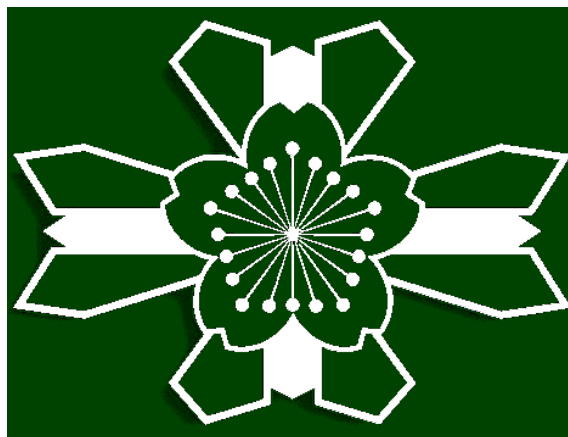


令和5年度 学校要覧



〈学校目標〉

夢・可能性・生きぬく力

〈教育目標〉

人と向き合い、社会とつながりながら
自ら考え、伝え、行動する幼児及び
児童生徒の育成

京都府立聾学校

〒616-8092 京都市右京区御室大内4
TEL 075-461-8121 FAX 075-461-8122
<https://www.kyoto-be.ne.jp/rou-s/cms/>



舞鶴分校

〒624-0853 舞鶴市字南田辺83
TEL 0773-75-1094 FAX 0773-76-2711
<https://www.kyoto-be.ne.jp/mourou-maizuru-s/cms/>

沿革

明治 11(1878)年	5月 24 日中京区船屋町に「日本最初盲啞院」開学 初代院長古河太四郎
明治 12(1879)年	9月府庁前に校舎完成(移転)
明治 13(1880)年	職業教育開始 聾児は彫鑄、指物、刺繍 明治 17 年に日本画等を加え 11 科に拡充
明治 14(1881)年	寄宿舎開設 工学場(職業科教室)完成
明治 22(1889)年	京都市に移管
明治 32(1899)年	校舎全面改築 教育方法としてベル視話法採用
明治 36(1903)年	創立 25 周年式典 「京都市立盲啞院一覽」「盲啞教育論」等発行
大正 10(1921)年	1年生から口話教育を開始 以後口話法に転換
大正 14(1925)年	聾啞学校令(大正 12 年)により盲啞院を分離「京都市立聾啞学校」となる
大正 15(1926)年	保護者有志「京都聾口話幼稚園」を創立(昭和 3 年「京都聾口話学園」と改称)
昭和 4(1929)年	創立 50 周年事業 「日本盲啞教育史」を発行
昭和 6(1931)年	京都府へ移管「京都府立聾啞学校」となる 聾口話学園を統合し第二教室とする
昭和 7(1932)年	口話法の進展により「啞」をはずし、「京都府立聾学校」となる
昭和 20(1945)年	戦争の激化により第二教室は学校工場 校舎の大半を建物疎開で取り壊す
昭和 23(1948)年	新学制により義務化
昭和 26(1951)年	現在地に移転 校舎等新築
昭和 27(1952)年	本校小学部に幼児学級及び重複障害児学級開設 6月 舞鶴分校が舞鶴市西公会堂で開校し、10 月に現在地へ移転
昭和 28(1953)年	本校、分校とも寄宿舎の建設に着手
昭和 37(1962)年	本校幼児学級は、幼稚部として3年保育、2歳児教育相談を開始
昭和 43(1968)年	創立 90 周年記念行事実施 「90 年誌」発行
昭和 48(1973)年	職業訓練棟竣工
昭和 53(1978)年	開学 100 周年記念式典挙行 「京都府盲聾教育百年史」等発行
昭和 56(1981)年	本校校舎全面改築
昭和 63(1988)年	開学 110 周年記念行事実施
平成 7(1995)年	本校に「ふれあいの森」竣工
平成 10(1998)年	開学 120 周年記念行事実施
平成 13(2001)年	校歌制定
平成 19(2007)年	聴覚支援センター開設
平成 21(2009)年	全国聾学校陸上大会京都大会開催
平成 24(2012)年	高等部新学科開設
平成 30(2018)年	「京都盲啞院関係資料」3,000 点が国の重要文化財に指定(本校所蔵 367 点)
平成 31(2019)年	学校運営協議会設置(本校)
令和 3(2021)年	学校運営協議会設置(舞鶴分校)

2 令和5年度学校経営計画の重点

1 全教職員による安心・安全な学校づくり

- 基本的な感染症対策を講じながら、安心して学べる教育環境を維持し、様々な教育活動の展開
- 避難訓練や防災学習、日々の安全指導の計画的な取組及び連絡・連携の強化
- 安心・安全な給食・舎食の実施や校内環境の整備

2 個と集団の多様な学び、質の高い学力・言語力を保障する授業改善

- 「想像と創造」が見える授業づくり(授業公開週間・教科担当者会)
- 全校研テーマ「伝える力」、伝えあい・学びあう学びの追求
- 能動的な挑戦を通して、やり抜く経験の蓄積
- 自立活動の充実(指導のねらい・内容の共有と見直し、学部や寄宿舎をつなぐ指導の系統性の追求、指導に生かせる研修の実施)
- ICT機器の積極的な活用(研修の受講、アプリや活用事例の交流・スキルアップのための研修の実施・ネットワーク等の専門性の継承)
- 様々なコミュニケーションスキルや意識の向上(対話的な学習や活動の重視・手話等の技術の向上・教育オーディオロジーに関する研修の充実)

3 聾学校の魅力の発信

- ホームページや学校だより等による魅力ある取組の発信
- 校内外における発信の内容や方法の工夫(学校運営協議会やPTAとの連携・校内掲示の充実・新聞等による広報)

4 地域のニーズに応じた支援相談の実施と関係機関との連携(センター的機能)

- 早期発見・早期支援に係る関係機関や行政との連携・協働
- 巡回相談等による地域や個々のニーズに応じた相談支援の実施
- 指導者の研修・支援、専門的力量的向上

3 幼児・児童・生徒の実態

1 学部・学年別在籍数

(1) 本校

(令和5年5月1日現在)

学部	幼稚部				小学部							中学部				高等部				合計
	3歳	4歳	5歳	小計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
男子	3	2	5	10	1	3	1	1	1	2	9	3	3	1	7	3	2	3	8	34
女子	5	3	3	11	2	1			1	1	5	4		4	8		2		2	26
合計	8	5	8	21	3	4	1	1	2	3	14	7	3	5	15	3	4	3	10	60

(2) 分校

(令和5年5月1日現在)

学部	幼稚部				小学部							中学部	高等部	合計						
	3歳	4歳	5歳	小計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計									
男子	2			2						1	1									3
女子	1	1	2	4	2				2		4									8
合計	3	1	2	6	2				2	1	5									11

2 地域別学部在籍人数

(令和5年5月1日現在)

学部	地域名	京都市	向日市	長岡京市	八幡市	宇治市	城陽市	京田辺市	木津川市	亀岡市	南丹市	綾部市	福知山市	舞鶴市	宮津市	京丹後市	乙訓郡	久世郡	綴喜郡	相楽郡	船井郡	与謝郡	府外	小計	合計
		幼稚部	本校	16	1			2	1			1													
分校												1	1	1		3								6	
小学部	本校	13	1																					14	19
分校														4	1									5	
中学部		11				1				2			1											15	15
高等部		4			1					1			1	3										10	10
計	本校	44	2		1	3	1			4			2	3										60	71
	分校											1	1	5		4								11	

3 学部別聴カレベル分布状況

良聴側の平均聴カレベル(4分法)による。

(令和5年5月1日現在)

学部	本 校					分 校			合 計
	幼稚部	小学部	中学部	高等部	計	幼稚部	小学部	計	
60未満		1	3	1	5		2	2	7
60~69	1		2		3	1	1	2	5
70~79	6		1	1	8				8
80~89	2	1		2	5				5
90~99	1	4		2	7				7
100~109	2	2	5	2	11		1	1	12
110~119				1	1				1
120~									
測定不能・不可※	9	6	4	1	20	5	1	6	26
計	21	14	15	10	60	6	5	11	71

※両耳人工内耳の場合、裸耳聴力の測定は行いません。

4 教職員数

(令和5年5月1日現在)

	本 校			舞 鶴 分 校			合 計
	教員数	職員数	本校計	教員数	職員数	分校計	
男	31	13	44	8	2	10	54
女	50	14	64	10	3	13	77
計	81	27	108	18	5	23	131

注)教員数は校長・副校長・教諭・養護教諭・栄養教諭を集計したものの。

5 校 歌

京都府立聾学校 校歌 夢・勇気

藤田 陽三 作詞
大中 恩 作曲

♩ = 68 (♩)

1. は な は ま い と り う た う
2. な が れ ゆ く れ き し の

き ぬ かけ の み ー ち わ れ ら わ
ほ こ り た か ら か に わ れ ら わ

こ う ど ゆ め む く ら ま ー せ と も
ゆ う き を わ か ー せ と お

と き か た ら う た の し く さ ー
な ゆ め を は の く も ー

1.
よ

2. rit. - - -
う

京都府立聾学校 校歌
夢・勇気
藤田陽三 作詞

一花は 舞い
鳥 歌う きぬかけの路
われら わこうど 夢ふくらませ
友と 語らう 楽しさよ

二流れゆく
歴史の ほこり 高らかに
われら わこうど 勇気を湧かせ
大きな 夢を 育もう